

過労死防止学会第3回大会 第4分科会

尾崎報告への追加——小学校新任教師の過労自死事件から

木村 和子

去る2月28日『静岡県職員組合と県福利厚生課との労使協議を経て、地方公務員災害補償基金静岡県支部主催の研修会において、下記のとおり、「過労死等防止対策推進シンポジウム」のような事例報告を実施する運びとなりました。

当該研修会は、各職場で公務災害認定請求に関わる総務担当者等を対象としたものです。木村様の御報告を通して、公務災害の発生は、家族のみならず周囲の人たちにも大きな悲しみを生むものであり、職場としても、防止策を尽くすことが重要だとの認識が広がることを期待しています。』との要請を受け、下記の体験談を發表しました。

『私の娘、木村百合子は、2004年4月、磐田市立の小学校に新規採用され、4年生のクラス担任となりました。念願の教職につくことができ、希望に満ちたスタートでした。

百合子が担任したクラスには、多動性・衝動性が顕著な児童が在籍していました。百合子はこの児童の指導に行き詰りました。同時に他の児童たちの中にも、百合子の指示に従わない子が現れ始め、クラス内の秩序が保てなくなりました。先輩教師に相談したり、指導方法を改善したりしましたが、状況は良くなりません。百合子は、「本当に必死な毎日」「必死にならなければ毎日を過ごせない状態」の中、「自分の最善を尽くしてきた」「そのことだけは胸を張っていようと思う」と奮闘しました。

しかし、クラスが大騒ぎした時などの応急処置的な対処はあるものの、百合子と担任するクラスへの学校としての支援体制は作られませんでした。それどころか、管理職などからは、「おまえの授業が悪いから荒れる」「アルバイトじゃないんだぞ」「問題ばかりお越しやがって」などと責められる始末でした。状況が改善されない中、9月になってクラスの保護者から「ちゃんと子どもの話を聞いていますか」などと書かれた苦情の手紙が届きました。その翌朝、車の中で焼死している百合子が発見されました。

・

・ 中略

・

これまで、過労死が起きても、その原因がうやむやにされたり、個人の問題とされてしまい、過労死の起きやすい環境が放置されているのではないのでしょうか。

皆さまにおかれましては、困難に直面している人や公務災害を訴える人の強い味方になって下さい。また、職場を調査する時には、嘘や隠し事をさせないように実態を明らかにして下さい。皆さまの一つ一つの対応が、きっと働きやすい職場、そして生きやすい世の中をつくっていきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

最後に、「すべての教師のために」という冊子に載せていただいた私たち遺族の思いです。

もし今、悩み苦しんでいる方がいらっしゃったら、私たちがその方に伝えたいのは百合子が遺したこの言葉です。「人と比較しなくていい。自分が苦しければ苦しいのだ。私が苦しければ苦しいのだ。私が大変ならば大変なのだ。」

当時、親である私たちは、非常に疲れた様子の百合子を、とても心配していましたが、助けることができませんでした。百合子は、教師になって悩みながらも、子どもたちの成長を喜び頑張っていました。けれども、困難な状況は改善されず、あの日を迎えてしまいました。もしあの時、周りの理解と協力があれば、回避できたかもしれません。

学校では、子どもたちが国語や算数を勉強するだけでなく、互いに協力し、助け合うことも学びます。子どもたちは、学校の中で教師同士が協力し助け合う姿からもそれを学んでいきます。ですから、学校の中で、教師同士が協力し助け合うことはとても大事なことだと思います。

今、あなたが問題に直面していたら、一人で抱え込まないで下さい。あなたが相談できる人、あなたを助けてくれる人を見つけて下さい。しかし、もし協力が得られず孤立するような時は、休養を取る事も考えて欲しいのです。くれぐれもご自身を大切にされてご活躍下さい。』

以上の発表に対して基金より、『実体験に基づき、生のことばで語られる木村様のお話は、多くの参加者の心を捉える内容でした。

参加者のアンケートからも、木村様の発表について、「ご遺族のお話には重みがあり心に響きます」、「体験談の持つ力は大きいと思いますし、よく話していただけたものと思ひ感謝します」、「木村さんの講和は心打たれるものでした。職場環境を整え、安全な職場づくりを実践する必要性を心より感じました」などという声が多数、寄せられました。』と報告を受けました。

この研修会参加者が過労死防止の必要性を感じたように、全教職員がこの思いを感じる必要があります。

娘が亡くなった当時のことですが、先生方から聞いた話です。

- ・
- ・
- ・

このような事を許す温床が今もあると思います。困難や問題を感じていても、一人一人は弱く声を上げにくいのではないのでしょうか。

組合員を守る立場にある教職員組合、教育の問題を解決する立場の教育委員会が、困難に直面している人を孤立させないで、安心して相談できる場所を用意する必要があります。

また、教職員一人一人が安全な職場作りを心掛ける必要があります、特に教育現場においての取り組みは子どもたちに関わることであり、社会にとって重要であることを全教職員が認識するよう、教職員組合また教育委員会を通して再三伝えていくことが大事だと思います。